

令和6年度 延岡市立土々呂中学校 学校評価書

※上段が今年度評価、下段は昨年度評価

質問項目	教職員			生徒			保護者			評議委員評価
	良好	要改善	分析	良好	要改善	分析	良好	要改善	分析	
学習面	生徒は、毎日の学校生活を楽しく過ごしていると思う。	93% 100%	7% 0%	◎ ○	83% 92%	17% 8%	○ ◎	81% 86%	19% 14%	○ ○
	学校は生徒の学力向上のために「わかる授業」に力を入れていると思う。	100% 95%	0% 5%	◎ ○	91% 89%	9% 11%	◎ ○	72% 77%	28% 23%	○ ○
	生徒は、「宅習ノート」等、家庭学習にしっかり取り組んでいると思う。	69% 84%	31% 16%	△ ○	72% 72%	28% 28%	○ ○	64% 66%	36% 34%	△ △
生活面	生徒は、いじめや差別を許さない言動ができるていると思う。	79% 74%	21% 26%	○ ○	93% 95%	7% 5%	◎ ◎	91% 91%	9% 9%	○ ○
	生徒は、学校内外であいさつを積極的に行っていると思う。	73% 76%	27% 24%	○ ○	91% 95%	9% 5%	◎ ◎	82% 84%	18% 16%	○ ○
	学校は、礼儀やきまりについて、しっかり指導していると思う。	100% 100%	0% 0%	◎ ○	91% 96%	9% 4%	◎ ◎	79% 87%	21% 13%	○ ○
保健安全面	生徒は、登下校時や休日、交通ルールをしっかり守っていると思う。	73% 67%	27% 33%	○ △	98% 96%	2% 4%	◎ ◎	92% 92%	8% 8%	○ ○
	生徒は、日常生活の中で情報機器を節度を守って使用していると思う。	29% 47%	71% 53%	× ×	73% 82%	27% 18%	○ ○	60% 61%	40% 39%	△ △
	学校は、安全・安心な学校環境づくりに努力していると思う。	100% 100%	0% 0%	◎ ○	90% 94%	10% 6%	◎ ○	80% 87%	20% 13%	○ ○

(学校運営協議会委員との意見交換)

- 家庭学習の定着を目的とする宅習ノートは内容をしっかり指導しなければ、ただ授業中のノートを写すだけで時間を無駄に使っているように感じる。提出を義務づける必要があるのか。→内容について教科や担任が指導しており、チェックの際にアドバイス等をしている。また、模範となるノート内容については、本人の承諾のもと教室や廊下に掲示するなど、より効果的な学習を促しているところである。
- 生徒本人用のスマートフォンの所持率はどの程度なのか。→8~9割の所持率であるととらえている。本人専用ではないが、保護者の機器でアプリ活用しているケースもある。
- 報道等に出ているようなSNSのトラブルがあるのか。→人間関係のトラブル等の起因がSNSを介したやりとりや画像・動画投稿によるものがとても多くなっており、対応に苦慮している。
- スマートフォンやアプリケーションなどの活用技術は親をはるかに超えている家庭も多く、学校での指導だけではとても網羅しきれない状況もある。家庭でのルールや禁止事項・利用内容の保護者チェックなど保護者による管理をしていくことが求められる。
- 安全面においては、道幅に対して車両交通量が多く、継続した安全指導と見守りが必要である。

令和6年度 学校評価報告書

延岡市立土々呂中学校

<学校評価アンケート結果より>

1 学習面に関して

- 「毎日の学校生活を楽しく過ごしているか」の項目については、教職員・生徒・保護者とも 80%以上の数値を示しており、毎日の学校生活が充実している様子がうかがえる。特に、各種行事への取組が非常に熱心で達成感を味わうことができた。しかし、一部の生徒による粗暴な言動や、場を乱す言動により心を痛めている人がいるのも事実なので、学校の大きな課題として考えたい。
- 分かる授業の項目においては、生徒の評価が改善した。一方で、保護者は直接授業を受けるわけではないので、生徒の話や成績から判断している部分がある。この2年間、「授業で勝負」をスローガンにしている事から、校内での意識が高まった。生徒の学習に関する結果に关心をもち、そのフォロー（対策）をしていくことをやっていきたい。
- 家庭学習は家庭状況や子どもによっても充実度が変わるので、学校側だけで対策をすることは難しいと感じる。しかし、子どもに早めに将来の夢や目標を持たせることで家庭学習の意欲が上がる可能性はある。そういった観点で総合的な学習などで、子ども達に将来を考える機会を与える。
- 今年度は家庭学習の項目で教職員の評価が下がったが、理由として様々な先生が生徒の宅習の状況を把握したからだと考える。2学期から宅習ノートを担任だけでなく、複数の教職員で点検するという方式に変更した。それにより内容の指導助言が増え、宅習の質が改善した生徒もいる。子どもや教職員が学習面について真剣に考え始めた結果ともとらえられるので、その点は前向きに考えたい。

2 生活面に関して

- 「いじめや差別を許さない言動ができているか」の項目については、生徒・保護者とも 90%以上の非常に高い数値を示したのに対し、教職員では 70%台と、差が見られた。家庭での言語環境が望ましくないため差異が出来ている可能性がある。
- 実際、いじめや人間関係トラブルは数件発生しており、特に SNS 等の媒体を通した事例が増えていく。人間関係を理由に、欠席する生徒もいる。
- 「校内外であいさつを積極的に行っているか」の項目については、生徒は好評価であった。生徒会や学年リーダーが牽引してのあいさつ運動や、各部活動での指導の成果と思われる。
- 教職員は昨年度とほぼ同じであったが、良好な人間関係を築くための手段であることを生徒に気づかせ、場面に応じた挨拶が自ら出来るように育てていきたいと考えている。
- 「礼儀やきまりについてしっかりと指導しているか」の項目についても、教職員・生徒・保護者ともおおむね好評価であった。校則についても生徒会を中心に、生徒とともに考え、なんのために約束があるのか、約束を守ることの大切さなど考える機会を作り、生徒は高い評価になったのではないかと考える。また、集会活動での礼法指導など、継続的に指導を行っており、今後も継続していく。

3 保健安全面に関して

- 登下校時の交通マナーについては、生徒・保護者とも 90%以上が交通ルールを守っているとの結果が出ているが、地域から交通マナーを守っていないことに関する指摘が数件あった。今年度は、朝の登校時に交通誘導員に立っていただいているが、今後も地域の協力を得ながら、交通マナーの向上に努めるとともに、交通安全教室等を通じて交通マナーについての知識理解を深める指導も行っていきたい。
- 情報機器の使用については、昨年同様、教職員や保護者の評価は低く、生徒のトラブルの大半にこの情報機器の使用が絡んでいる状況である。個人が所有する情報機器については、家庭での指導や見守りが果たす役割が大きく、その責任は保護者が負うものであるが、家庭を巻き込んだ啓発や指導は今後も必要と考える。また、学校において使用するタブレット端末については、ICT教育が進み、授業において使用する頻度が増加している一方、教師の目の届かない場面での使用や休み時間の使用に関して心配な面も出てきており、使用ルールの徹底を図っていく必要がある。
- 安全・安心な学校環境づくりについては、教職員・生徒・保護者とも高評価であり、大半の生徒が落ち着いた学校生活を送れていると考える。避難訓練や不審者対応訓練などを繰り返し実施し、安全・安心な学校環境づくりを継続していく。